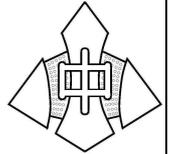


郡山市立小原田中学校
学校だより

No.53
最終号

“小原田PRIDE”～自信と誇り

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



手をたずさえて

令和4年3月23日（水）発行

【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

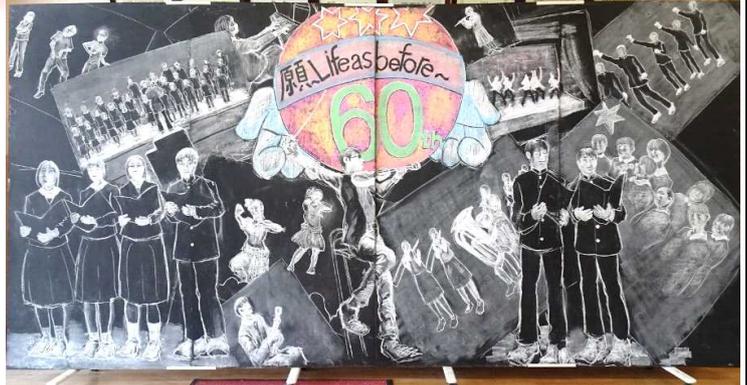
進級おめでとうございます

『置かれた場所で咲きなさい』

修了証書は、1年生、2年生がそれぞれの学年で学ぶべきことを学び終えましたという証明書です。進級おめでとうございます。

3月11日の卒業式は小原田中らしい感動的な式となりました。在校生代表として、ただ一人参加した凌りくさんの涙の“送ることば”には、心が揺さぶられました。伊藤壺太郎君の“別れのことば”では、家族、教職員、そして仲間への感謝の気持ちが込められた温かいメッセージが、彼らしい言葉で述べられました。

伊野PTA会長にもご臨席を賜り、祝辞をいただくことができました。さらに、サプライズとして、あの増田太郎さんから新曲にのせたお祝いのメッセージが届き、披露されました。（太郎さん、ありがとうございました。）1・2年生は式には参加できなくても、事前の式の準備や清掃活動に取り組み、その責任を果たしてくれました。7日に実施されたお別れの会も含め、在校生のみんなにも心から感謝します。式には参加しなくても、『卒業』という中学校生活最大かつ最終の目標に対して、1年後、2年後の自分の姿と重ね合わせてイメージをふくらませてほしいと思います。



昇降口に飾られた石井先生制作の“黑板アート”
今年度のテーマは“60周年記念教育講演ライブと友垣祭”

ベストセラー『置かれた場所で咲きなさい』の著者で、岡山県岡山市にある学校法人ノートルダム清心学園の元理事長であった渡辺和子さん。

1984年にあのマザー・テレサが来日した際には通訳を務めるなど多方面で活躍され、著書も多数あります。「多くの人を導いた渡辺さん。教えはいつも傷ついた人の灯となって息づく」と、2016年に亡くなられた時には多くの方が別れを惜しまれました。

渡辺さんが理事長を務めていたノートルダム清心学園の建学の精神に、『ていねいに生きる』という理念があります。

『ていねいに生きる』とは、どういう生き方なのでしょう？

渡辺さんは、ある言葉から、ていねいに生きる一つのヒントを得たと著書の中で言っています。それは、「ひとのいのちも、ものも、両手でいただきなさい」という言葉

です。誰が考えても、よいもの、ありがたいもの、例えば賞状、卒業証書、花束などを両手でいただくのには、何の抵抗もないでしょう。しかし、自分がほしくないものだと、そうはいきません。拒否したい、突き返したいようなものが差し出されたとき、果たしてそれらを受け止めるだけでなく、両手でいただく心になれるだろうか、と私は自分に問いかけ続けています、と渡辺さんは書いています。

自分のわがままを抑えて、他人の喜びとなる生き方をすること、面倒なことを面倒くさげらず笑顔で行うこと、仕返しや口答えを我慢することなど、自己中心的な自分との絶え間ない戦いにおいて、実現できるものなのだと思います。



置かれた場所で
咲きなさい

渡辺和子
ノートルダム清心学園理事長



そして、渡辺さんは、次のように書いています。

「時間の使い方は、そのまま、いのちの使い方なのです。置かれたところで咲いてください。」

就職をしても、結婚をしても、子育てをしても、これから生きていく中で「こんなはずじゃなかった」と思うことが、次から次へと出てきます。そんな時にも、その状況の中で「咲く」努力をしてほしいのです。

でも、どうしても咲けない時もあります。雨風が強い時、日でも続きで咲けない日、そんな時には無理に咲かなくてもいい。その代わりに、根を下へ下へと降ろして、根を張るのです。次に咲く花が、より大きく、美しいものとなるために…

渡辺さんの言葉は、自らを省みる機会を与えてくれます。そして、たくさんの勇気をもたらすことができます。人は、どんな境遇でも輝くことができます。みんなは、どんな場所で、どんな花を咲かせることができるのでしょうか。“ていねいに生きる”ということと共に、是非、今日の話を中心に受け止めてください。

最後になりますが、きみたちの2022年度（令和4年度）の1年間をより良きものにするためには、まずは明日からの春休みの過ごし方にかかっていると思います。新型コロナウイルスの感染が拡大しているという現状をよく考えて、家庭内における感染症対策を徹底してください。また、感染に関して、誹謗中傷等の言動が決してないようにしてください。そして、長期休業前にいつも言ってきましたが、命の大切さを自覚し、悪の誘惑にも決して負けることなく、自分の箍（たが）を緩めることなく、事故『0』の春休みを実現してほしいと思います。

～ 修了式 校長式辞より ～

保護者の皆様へ 今年度のご協力・ご支援に感謝申し上げます 『手をたずさえて』最終号となります！ご愛読に感謝いたします



お子様のご進級おめでとうございます。

3月11日に行われました「第61回卒業証書授与式」は、規模縮小ではありましたが、感動的な式となりました。101名の卒業生たちは、まわりの人たちへの感謝の気持ちをもって学舎を旅立ち、それぞれに力強い一歩を踏み出してくれました。式には参加できなかった1・2年生は、もう一つの卒業式と位置付けた「お別れ会」や卒業式の準備等でよく動いてくれました。それぞれ進級する1・2年生に頼もしさを感じました。

今年度の教育活動も、様々な面で新型コロナウイルスの影響を受けることになりましたが、感染症対策へのご理解とご協力、部活動等でのご支援に心より感謝申し上げます。なお、明日以降の学校の対応及び家庭内における感染症対策の徹底等につきましては、先日配付しました通知「新型コロナウイルス感染に伴う学校の対応について」の内容をご確認願います。

また、3月16日に発生しました地震ですが、ご家庭での状況はいかがだったでしょうか。本校では、体育館の外壁、理科室・音楽室等での備品の破損等の被害がありました。2年連続の大きな地震でした。改めて地震、水害、大雨等の自然災害に関する防災教育の重要性を痛感しました。

さて、学校だより『手をたずさえて』も最終号となりました。

学校を運営するということは、生徒同士、生徒と教職員、教職員同士、さらには家庭と学校、地域と学校、関係機関と学校等が、ともに手をたずさえることが必要不可欠なことから、11年前に本宮第二中学校に校長として着任して以来、『手をたずさえて』と命名した学校だよりです。これは、アメリカ人歌手ダイアナ・ロスの代表曲『If We Hold On Together』からヒントをもらいネーミングしました。学校のあるべき姿を表現する大切な言葉だと思っています。小原田中学校での勤務は、まさにコロナ渦の2年間でしたが、その時々での学校の状況、生徒たちの活躍、私の想いや願いなどを綴ってきました。

創立60周年と自分の退職とが重なるという運命的な巡り合わせを感じております。保護者の皆様、ご家庭の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。小原田中学校長として、教職員人生を終えることができることを嬉しく思います。本当にありがとうございました。

